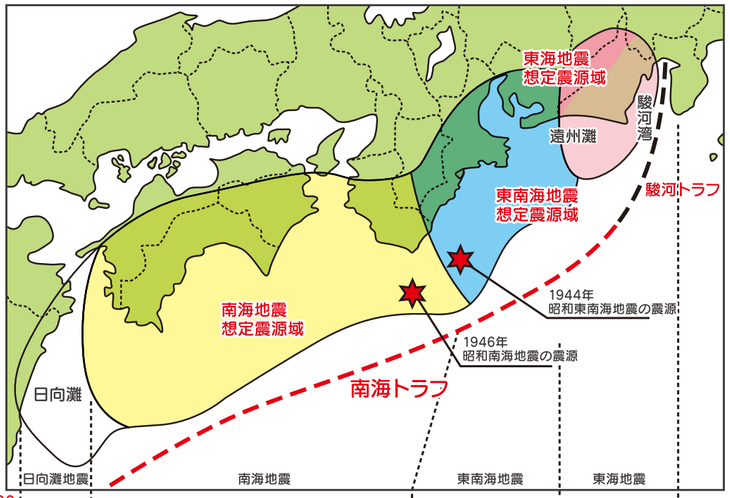
# 南海トラフ地震が発生したら?

被害想定を知り、いのちを守る備えをしておきましょう。

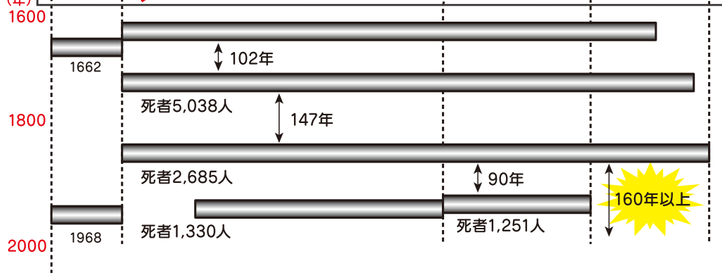
## ●南海トラフ地震とは（今後30年以内の発生確率70～80%）

トラフとは、深さ6,000mまでの海底のくぼみを意味します。南海トラフは、静岡県の駿河湾から九州にかけて伸びており、過去にマグニチュード8クラスの東海地震、東南海地震、南海地震が概ね100～150年おきに繰り返し起きています。この3つの地震の震源域を中心に広大な範囲（日向灘を含む）が連動して発生する地震を「南海トラフ地震」といいます。



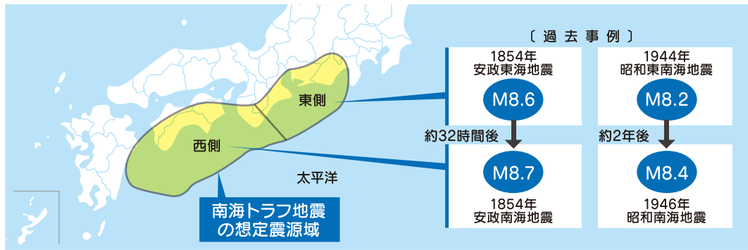

過去より繰り返し発生しています

※ ▬ は、過去に発生した地震の震源域を示したもの




| | |
|---|---|
| 慶長地震（M7.9） | 1605年 |
| 宝永地震（M8.6） | 1707年 |
| 安政東海地震（M8.6）<br>安政南海地震（M8.7） | 1854年 |
| 昭和東南海地震（M8.2）<br>昭和南海地震（M8.4） | 1944年<br>1946年 |

## ●地震は一度では終わらないかも ～時間差で起きる場合も～




想定震源域の広い範囲で一度に割れる場合、東側と西側が別々に割れる「半割れケース」、それより一回り小さい「一部割れケース」などがあり、これらが連続して発生する場合に備え、発表されるものが「南海トラフ地震臨時情報」です。

## ●阿久比町の南海トラフ地震の被害想定

**過去地震最大モデル**　震度6強を想定

南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震）を重ね合わせたモデル。

**理論上最大想定モデル**　震度7を想定

南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を想定したモデル。（千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いもの）

■人的被害（死者）

| 想定地震の区分（冬深夜5時発災、県全体の死者数の合計が最大となる場合） | 過去地震最大モデル | 理論上最大想定モデル |
|---|---|---|
| 建物倒壊等による死者数 | 約10人 | 約100人 |
| （うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物） | （被害わずか） | （約10人） |
| 浸水・津波による死者数 | 被害わずか | 被害わずか |
| （うち自力脱出困難） | （被害わずか） | （被害わずか） |
| （うち逃げ遅れ） | （被害わずか） | （被害わずか） |
| 急傾斜地崩壊等による死者数 | 被害わずか | 被害わずか |
| 火災による死者数 | 被害わずか | 約20人 |
| 死者数　合計 | 約10人 | 約200人 |

■建物被害（全壊、焼失）

| 想定地震の区分（冬夕方18時発災、県全体の死者数の合計が最大となる場合） | 想定地震最大モデル | 理論上最大想定モデル |
|---|---|---|
| 揺れによる全壊数 | 約300棟 | 約2,600棟 |
| 液状化による全壊数 | 被害わずか | 被害わずか |
| 浸水・津波による全壊数 | 被害わずか | 被害わずか |
| 急傾斜地崩壊等による全壊数 | 約10棟 | 約10棟 |
| 火災による焼失数 | 約80棟 | 約600棟 |
| 全壊・焼失棟数　合計 | 約300棟 | 約3,100棟 |

表中の数字は右の①～③にしたがって端数処理を行ったため、合計が各項目の和に一致しない場合がある。①5未満→「被害わずか」、②5以上100未満→「一の位を四捨五入」、③100以上1万未満→「十の位を四捨五入」



## ●南海トラフ地震臨時情報（時間差で発生する巨大地震に備えましょう）

- 南海トラフ地震発生の可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。
- 国や町などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

### 地震発生後の防災対応の流れ

**発生後**

南海トラフの想定震源域またはその周辺で **M6.8以上の地震が発生**

南海トラフの想定震源域のプレート境界面で **通常とは異なるゆっくりすべり（※1）が発生した可能性**

発生から5分～30分後

**南海トラフ地震臨時情報（調査中）**

**防災対応をとる必要あり**

「半割れケース」想定震源域のプレート境界でM8.0以上の地震

**南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）**

■ 日頃からの地震への備えを再確認する等
■ 津波からの避難が間に合わない一部の地域では引き続き1週間避難を継続

国からの呼びかけ等に従って行動を

・警戒措置を解除し、さらに1週間、地震への注意措置をとる。

■ 日頃からの地震への備えを再確認する等

■ 地震の発生に注意しながら通常の生活を送る。ただし、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意

「一部割れケース」M7.0以上の地震（※2）　「ゆっくりすべり」

**南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）**

■ 日頃からの地震への備えを再確認する等

■ 地震の発生に注意しながら通常の生活を送る。ただし、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意

**必要なし**

左記以外

**南海トラフ地震臨時情報（調査終了）**

■ 通常の生活。ただし、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意

2時間程度～1週間（※3）

1週間～2週間

2週間～

■ 地震の発生に注意しながら通常の生活を送る。ただし、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意

※1　住民が揺れを感じることがない、プレート境界面のゆっくりとしたずれ（スロースリップ）による地殻変動
※2　想定震源域、またはその周辺でM7.0以上の地震が発生（ただし、プレート境界のM8.0以上の地震を除く）
※3　ゆっくりすべりが観測された場合は、それが収まったと評価されるまで

出典：内閣府・気象庁　作成：リーフレット「南海トラフ地震　-その時の備え-」より

**震度5弱**
- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。

**震度5強**
- 物につかまらないと歩くことが難しい。
- 固定していない家具が倒れることがある。

**震度6弱**
- 立っていることが困難になる。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

**震度6強**
- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

**震度7**
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

### ●緊急地震速報とシェイクアウト

震度5弱以上の揺れを予測した場合に、震度4以上の揺れが推定される地域に発表されます。

①まず低く　②頭を守り　③動かない

出典：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議

### 地震発生後の行動の目安

**地震発生から0～2分**

**自分の身を守る**

転倒の恐れのある家具等から離れ、頭を保護して机の下など頑丈な場所に隠れる。（シェイクアウト）

**地震発生直後**

**出火防止・脱出口確保**

ガスの元栓を閉め、コンセントを抜き、ブレーカーを落とす。（平常時からの感震ブレーカーの取付けも効果的）
出火がないかを確認し、窓やドアを開け脱出口を確保する。

**地震発生から3日目まで**

**家族の安全確保、「安否確認フラッグ」の掲示**

探しに来た人に伝わるように、自宅にいる方が全員無事なら「安否確認フラッグ」を掲示する。
隣近所に声を掛け、状況により徒歩で避難する。

**隣近所で消火・救出・救護**

隣近所で協力し、消火、ケガ人の救出、救護にあたる。

安否確認フラッグ